

第4回つやま検定

186人が難問に挑戦 歴史や文化 多彩な50問

津山市の歴史、文化などをテーマにした「第4回美作の国つやま検定」

(津山商業高 新聞社共催)が11日、商業クラブ主催、山陽同市山北の市総合福祉



真剣な表情で問題を解く受験者

会館で行われ、美作地域をはじめ県内外の学生、会社員らが難問に挑んだ。

検定は史跡、伝統行事、観光など多彩なジャンルから、商業クラブの生徒が作った三者択一式の計50問を1時間以内で解答。10〜70代の男女計186人が受験した。

今回は津山の鉄道に関する問いが全体の約2割を占めた。「JR因美線で登録有形文化財の駅舎がある駅は」(答え〓美作滝尾駅)や「大腸、小腸などの名前を定着させた江戸時代のベス

トセー医学書『医範提綱』を著したのは誰か」(答え〓宇田川玄真)といった問題に真剣な表情で取り組んだ。

35問以上正解した場合格者には後日、検定認定証が贈られる。津山を深く知り、魅力を次世代に伝えてもらおうと、津山商工

会議所青年部が2009年に行った「津山ふるさと検定」を引き継ぐ形で12年から実施している。

(田井香菜子)